



## INTERVIEW



あかりみらい  
代表取締役  
エネルギーコンサルタント  
おち ふみお  
越智 文雄さん

## 製造禁止を迎える時期

2019年に安定器の製造が終了しているため、従来の照明の寿命が来たらLEDに替える必要がある。

## 2026年末

コンパクト  
蛍光灯

## 2027年末

蛍光管

※国内メーカーには、  
2027年9月末で製造を  
終了するところもある

## 不点灯を防ぐために



学校や病院など、照明を絶やせない重要な施設・設備が多い。

照明と空調の省エネ施策で  
電気代の半減を目指す。

蛍光管の製造禁止が来年末に迫る中、LED化をスピーディに進めるには、リースの活用が適切だという。空調の冷媒ガスを交換する手法も注目されつつある。この両軸での対策が有効だと、「あかりみらい」の越智さんは力を込める。

資材不足が現実味を帯びる今こそ、  
施設のLED化を優先して進めたい。

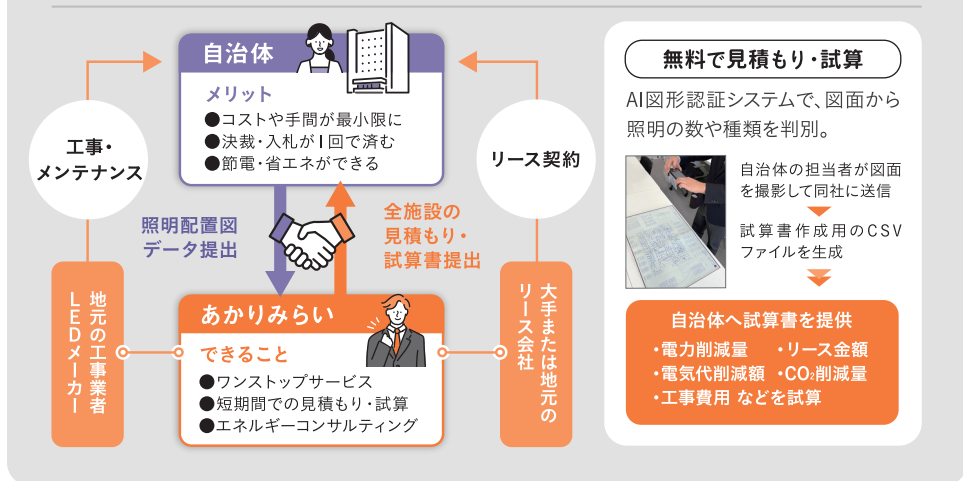
## —LED化の進捗状況を教えてください。

蛍光管の製造禁止がいよいよ来年末に迫っていますが、所有する全施設のLED化が完了した自治体は、まだ少数のようです。一方で、レアメタルを原料とするLED資材の不足は進んでいます。今後さらに需給がひっ迫して、価格が高騰する可能性も否めません。従来の公共事業の受注方法では、資材確保が難しくなるでしょう。在庫が切れたら次の入荷時期は分からないという事態に。自治体のもつ重要な施設では、長期の不点灯を起こすわけにはいきません。公共建築から民活へとやり方を見直し、スピードアップを図る必要があります。

## —短期間で進める方法がありますか。

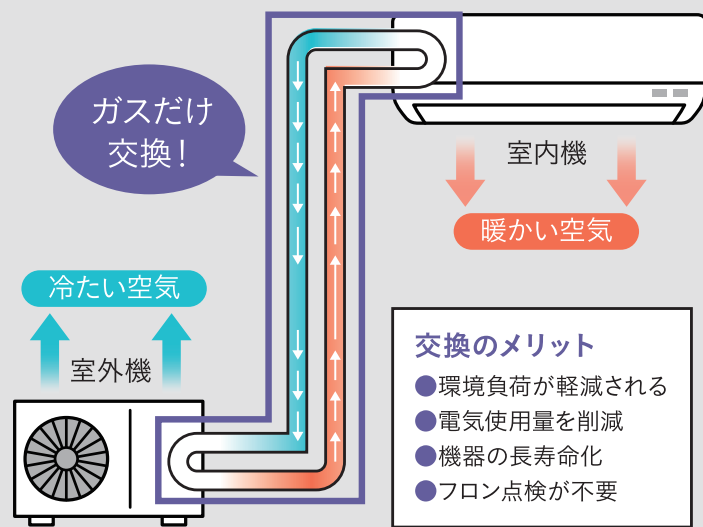
施設の所管課ごとに取り組むのではなく、組織を横断し、全施設を一括してLED化すれば、短期間のうちに効率よく工事を終わらせることができます。さらに長期リースを活用すれば、支払いは分割です。照明の数が膨大になると、見積もりが大変ですが、自治体担当者は、照明配置図をスマホで撮

## LED化をスムーズに進める仕組み



## 節電施策による環境と財政へのメリット

空調などの熱を運ぶ“冷媒”には、従来フロンガスが使われてきた。自然冷媒ガスに替えることで、環境負荷を軽減し、電気使用量を抑えられる。



## 導入実績

## 【電気使用量の削減率】

- ・全国ホテルチェーン店 約170店舗(▲39%)
  - ・全国ジムチェーン店 約1,500店舗(▲33%)
  - ・北海道 食品工場(▲49%)
  - ・北海道 大規模スーパー(▲44%)
  - ・秋田県 米保冷倉庫(▲62%)
  - ・沖縄県 資料館(▲38%) など
- ※令和7年10月時点 あかりみらい調べ

## 【導入事例の動画】

病院施設などでの冷媒交換の様子  
を動画で紹介。視聴はこちらから▶



## セミナーを定期開催中

照明のLED化と空調冷媒の2つのテーマでオンラインセミナーを開催。全国の自治体や省庁の取り組みに詳しい同社の越智さんがアドバイスする。

## 【テーマ】

- 照明一括LED化(1時間半程度)
- ・リース活用
- ・見積もり試算方法
- ・自治体試算例 など

## ●冷媒ガス交換(1時間程度)

- ・地球温暖化の原因
- ・自然冷媒ガスへの交換
- ・設備の長寿命化 など

各テーマ予約制／参加無料／  
質疑応答あり

スケジュール確認  
や受講の申し込み  
はこちらから▶



セミナーの参加者に  
同社がマニュアルを進呈!



お問い合わせ

☎ 0120-760-814

✉ akari@akarimirai.com

株式会社あかりみらい  
東京都中央区日本橋室町1-2-6  
日本橋大栄ビル7F

お問い合わせ・  
詳細はこちら▶



影して当社に送るだけ。その画像から、自社開発のAI図形認証システムが照明の種類や数を識別し、数日で見積もりを出します。工事費用は民間相場で算定するため、公共単価の約3分の1に。LEDへの転換で、約7割の節電効果が見込め、浮いた電気代をリース費用に充てられます。電気使用量・電気代・CO<sub>2</sub>の削減見込みなども提示するので、検討しやすくなるのではないのでしょうか。年度の早い段階で補正予算を組み、着工した自治体もあります。スケジュール策定などもサポートするので、相談してください。

照明の次は空調の節電施策で  
財政を圧迫する光熱費を削減。

## —ほかにもできる節電施策は。

照明に並び、光熱費の多くを占める空調での節電施策をオススメしています。設備交換ではなく、熱を運ぶ“冷媒ガス”を従来のフロンガスから炭化水素系の自然冷媒ガスに交換するのです。このガスは、フロンより分子が大きくて軽いため、機器への圧力を抑制。3～6割の消費電力を削減し、CO<sub>2</sub>排出量も減らせるため、脱炭素施策としても非常に有益です。世界的な脱フロンの流れの中で、日本でも進みつつある手法です。

## —導入状況を教えてください。

当社の業務提携先では、全国のホテル

チェーンで約170店舗、ジムチェーンで約1,500店舗など民間での実績があるほか、公共施設では資料館などが取り入れています。空調の本体を交換する必要がないので取り組みやすく、電気代の削減効果が高いことから、自治体の関心も高まってきているところです。当社のオンラインセミナーには全国から参加があり、積極的な検討も始まっています。

節電で生まれた余剰を財源に  
まちの施策のさらなる充実へ。

## —LED化と冷媒交換で期待できる効果は。

照明のLED化と空調の冷媒交換を進めれば、全体の半分近い電気使用量の削減が見込めます。猛暑でも真冬でも、設定温度を適切に保ったまま節電できるため、施設を利用する住民からも喜ばれることでしょう。視点を変えた施策で、利便性を損ねることなく節電に取り組んでほしいです。

## —その先にどんな期待がありますか。

節電が進めば財源確保につながり、余剰分を防災や教育、福祉など、ほかの施策にまわすことができます。財源やリソースが限られる中、光熱費のような固定費を抑えて住民サービスの向上が図れるのであれば、これほどよいことはありません。行政が率先して省エネに取り組むことで財源をつくり、まちの魅力アップも期待できると思います。